

# ひがしの

3月号 東野小学校報 No.13

子どもの思い(学級通信より) 校長 青山龍三

寒さも峠を越したようです。登校指導もそれほど寒さを感じなくなりました。子どもたちは変わらず元気に学校生活を送っています。しかし、インフルエンザには勝てません。ことしは、A型の後B型が流行り、今もまだ欠席がやんでいません。それにしても、インフルエンザウィルスの感染力の強さと、賢さには舌を巻いてしまいます。高熱で苦しめておいて、熱が下がると咳を出して次のターゲットにうつる、まるで知能があるようです。まだまだ油断ができない日が続きます。十分注意を払っていきましょう。



子どもたちは学校や家であったことを日記などに書き残します。事実の羅列ではなく、書いた子の思いが語られて楽しく読めます。

(6年生)今日は、なわとびができなくて残念でした。でも縄跳びの代わりに雪合戦ができて楽しかったです。手袋じゃうまくできなくて素手でやったらとても冷たかったので、ヒート思いました。

(2年生)今日、おばあちゃんがしごとだったので、おじいちゃんといっしょにもちつきをしました。まず、もちつききに水を入れて、その上のむしきにもち米を入れて、むすボタンをおしました。少しするとゆ気が出てきました。それからブザーがなったので、つくのボタンをおしました。見ていたらもち米がころんころんとだんだん丸くなったのでもちになりました。またブザーがなったので、おじいちゃんがこなのしいてあるところに出して、のばしていきました。それを五回やりました。かがみもちを丸めて、大きいのと小さいのをたくさん作りました。昼ごはんは、つきたてのもちを食べました。すごくおいしかったです。


(4年生)わたしは、字がへただから、もっといいいにしていこうとすることを(新年の)めあてにします。それは、ノートなどの字が自分でも分からないし、終業式のとわ君の言葉で、わたしもていね

いに書こうと思いました。ノートもよいてい帳もていねいに書いていきたいです。

(1年生)わたしは、きのうあゆかちゃんのおじいちゃんにたけとんぼをおしえてもらいました。わたしはさいしょはちがうやりかたをしてたのにあゆかちゃんのおじいちゃんにおしえてもらったら、ほんとうによくとびました。わたしはたけとんぼをもっともっとじょうずになりたいです。

(6年生)今日は、6年生の人数が10人しかいなくて9人も休みました。結局、学級閉鎖になりました。給食では、約半分の人が休んでいるので量が2倍になりました。お腹がぱんぱんでたいへんでした。

(3年生)(学習発表会で)一番目は3年生だからきんちょうしました。最初は算数で、次は社会だからどきどきしました。大きな声で最初の言葉が言えてよかったです。地図記号も遅れずに出せてよかったです。自分たちのチームの発表が終わっても体育チームの発表を待っているときにちゃんと手をたたいて、よいしせいと待っていたのでよかったです。これからもどんどん勉強と体力づくりも頑張っていきます。

(3年生)わたしは、馬頭琴の音色がどうゆう音が知れたかったので、とてもワクワクしました。馬頭琴をひく人と、琴という2メートル近くある楽器をひいてくれました。と中で「はなみずき」をひいてもらいました。わたしははなみずきの歌が好きなので、心の中で歌いました。ほかの曲もきれいで、馬の鳴き声が上手でした。

いくつか紹介しましたが、どの文も書いた子の様子が生き生きと伝わってくるものばかりです。自分の思いを、このように文字に残すことは成人すると日記でも書く習慣がない限りほとんどありません。東野の未来を担う子どもたちの成長が楽しみです。